

2020年12月9日

東レ株式会社

CDP「水セキュリティ」において2年連続で最高評価を獲得

東レ株式会社(本社:東京都中央区、社長:日覺昭廣、以下「東レ」)は、このたび、国際的な非営利組織 CDP^{*1} が実施した水資源保護に関する調査において、最高評価である「水セキュリティ Aリスト企業」に2年連続で選定されました。

東レグループは、1926年の創業以来、「企業は社会の公器であり、その事業を通じて社会に貢献する」との経営思想の下、さまざまな地球環境問題に対し、革新的な先端材料の創出を通じて本質的なソリューションを提供していくことが、東レグループの変わらない使命だと考えています。

東レグループが2050年に目指す世界を示した「東レグループ サステナビリティ・ビジョン」や長期経営ビジョン“TORAY VISION 2030”の中では、安全な水の提供を東レグループが取り組むべき課題の一つとして掲げています。この課題の実現に向け、東レグループ全体でRO膜をはじめとする水処理技術を通じた世界各地の水不足への貢献と、自らの事業活動における水資源の3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進や適切な管理による水資源の保護に取り組んでいます。



水資源は人間を含めた生物の生存に不可欠な要素です。しかし、私たちの生活で容易に利用可能な淡水は地球上の水のわずか0.01%しかありません。世界の人口増加や経済発展を背景に、水ストレス^{*2}の増大や水質汚染が問題となっており、近年、世界的な気候変動の影響による干ばつや洪水等の災害も世界で多発しています。

さらに、世界の食糧需要は今後15年間で20%以上増加すると予測され、水資源の枯渇は農作物不作による飢饉頻発のリスクにもつながるため、安全な水の確保は、国連の17からなる持続可能な開発目標(SDGs)の一つとなっています。

今後も東レグループは、「すべての製品の元となる素材には社会を本質的に変える力がある」との信念の下、水資源問題や気候変動を含む地球規模の課題の解決に貢献すべく取り組みを積極的に推進し、社会全体のサステナビリティ実現に力を尽くしてまいります。

以上

(※1)CDP:

環境問題に高い関心を持つ世界の機関投資家や主要購買企業の要請に基づき、企業や自治体に、気候変動対策、水資源保護、森林保全等の環境問題対策に関して情報開示を求め、また、それを通じてその対策を促すことを主たる活動としている非営利組織。2000年に英国で設立された。

(※2)水ストレス:

人口1人当たりの年間利用可能水量が1,700tを下回り、日常生活に不便を感じる状態のことをさす。

<ご参考>

CDP ホームページ:

<https://www.cdp.net/>

東レグループ サステナビリティ・ビジョン:

<https://www.toray.co.jp/sustainability/vision/>

東レグループ サステナビリティ・ビジョン 特集記事

海水を淡水に変える分離膜技術で人々に希望の光を:

<https://www.toray.co.jp/sustainability/vision/articles/vol08.html>

<本件に関するお問い合わせ先>

東レ株式会社 広報室 (東京)TEL:03-3245-5179 (大阪)TEL:06-7688-3085